

ケンブリッジ美術館へのセルフガイドツアー

入口回廊

バーに入る前に、来訪者は廊下を通り、そこでは写真に写っているホワイトホース・インの最後の大家、ウィロビー・ダドリー・ヘイが妻のサラと娘のウィニフレッド、ドロシー、アイリーンが写っています。

ヘイ家は、宿屋の最も長く勤めた大家の一人でした。ウィロビーとサラは1901年に結婚し、ここで結婚生活を始めました。3人の娘は全員、その建物で生まれました。サラは優れた料理人として知られており、彼女の娘は後に、周辺の村々からカートでやって来た農家が持ち込んだ野菜の調理を手伝い、食べ物や飲み物のために立ち寄ったことを思い出しました。

家庭生活とビジネスは切っても切れない関係でした。サラの娘は、シンクの戸棚が暗く陰鬱でクモだらけだったため、食器洗いが嫌いだったことを思い出しました。ウィロビーが1933年に亡くなった後、サラはさらに1年間、大家として続けました。その宿はその後、ケンブリッジ区議会に買収され、ケンブリッジ博物館への転換が始まりました。

この画像は、稼働中のパブから博物館への転換を示しており、この建物がかつては家族の住まいであると同時に交易の場でもあったことを私たちに思い起こさせます。

ザ・バー

そのバーは建物で最も古い部分で、17世紀に遡り、その頃はホワイトホース・インとして知られていました。厨房が18世紀に追加される前は、ここで料理・暖房・社交生活が中心とされてきました。この部屋に展示されている物は、初期近代ケンブリッジにおける食事の準備、飲酒、貿易、余暇を反映しています。

イングレヌーク暖炉 - 17世紀

この大きなイングレヌーク暖炉は、ホワイトホース・インのオリジナルです。それは暖房と調理設備の両方を提供しました。別のキッチンが存在する前は、すべての食事がここで調理されていました。その規模は、旅館に立ち寄った旅行者や宿泊者、農業労働者のために料理する必要性を反映しています。

煙突クレーン - 17世紀/18世紀

煙突クレーンは火の上を揺れ、調理温度を調整するために鍋を上下に調整できました。フックと調整可能なアームがさまざまな容器を保持しました。これは博物館に最初に所蔵された遺物であり、象徴的に博物館のコレクションの始まりとなります。

サラマンダー - 19世紀

サラマンダーは、ダイヤモンドの形をしたハンドルを持つ重い金属板です。それは火で加熱され、食材の上に乗せて、皿の表面が焼き色づいたり溶けたりしました。その名前は、火の中に住むと信じられている神話上の生物に由来しています。

トースター - 約1800

この鉄製トースターは、いくつかのパンのスライスまたはスコーンをスパイク状に載せ、開いた火の前に置かれました。トーストは遅く、後の密閉式トースターとは異なり、常に注意を払う必要がありました。

ローストジャック（スピットエンジン） - 18世紀

この時計仕掛け機は、下降重りを使用してスピットを自動的に回転させました。発明される前は、肉は手作業で加工されていました。ローストジャックは最も初期の機械式キッチン機器の一つであり、電気が普及するはるか以前に技術が料理に取り入れられたことを示しています。

バスケットスピット

普通の串焼きとは異なり、肉はこのゆりかごの中に刺されることなく休ませられました。それは、ヒーターの横にある機構によって回転させ、均一に調理し、ジュースを保存できるようにしました。

パントガン（約1730年）

この巨大な砲は砲台に取り付けられ、特にテムズ川や沼地で多数の水鳥を射撃するために使用されました。一撃で群れ全体を殺すことができます。鳥は都市の市場に販売され、取引は非常に破壊的となり、後にパントガンが禁止されました。それは都市需要のための天然資源の活用を反映しています。

キャンドルボックス - 18世紀

壁に掛けられた、家庭用の保存キャンドルです。キャンドルは高価で、乾いて安全に保つことが重要でした。

ナイフボックス

ステンレス以前は、ナイフは錆びやすいです。それらを暖かな場所、暖かな場所の近くで保管すると、乾燥して使用可能に保たれました。

タバコと喫煙のディスプレイ

最初に記録されたイギリス人喫煙者は、1556年にブリストルで目撃されました。タバコは、ヨーロッパとアメリカ大陸との貿易を通じて、そして1612年以降、バージニアのイギリスのプランテーションからやって来ました。

1666年までに、大量のタバコ貨物がイングランドに到着していました。パイプは、1870年に米国で製造されたタバコが徐々に取って代わるまで一般的でした。第一次世界大戦中、タバコは兵士の配給品の一部となりました。展示されているのは、1914年に部隊へ送られたプリンセス・メアリー・ギフト・ファンドのタバコ缶です。その年のクリスマスまでに、40万個の缶が配布されました。

宿屋の看板：いたずらが満載の男

19世紀、リチャード・ホプキンス・リーチ

この塗装された宿の看板は、1921年に閉鎖された34マグダレン・ロードから来ました。それは、喧嘩好きな妻と動物に重荷をかかっている男性を描いています。裏面は、以前の家庭内紛争のシーンを示しています。

この画像は結婚に関する一般的な格言を反映しており、ウィリアム・ホガスの以前の作品にインスパイアされています。それはケンブリッジのサインペインティングと国民的風刺、そして道徳的なストーリーテリングを結びつけます。

ステンドグラスの窓

1つの窓は、鍛冶師であるジェイコブ・チャップマンの自宅から来ており、約1880年頃のものであります。別のものは、トーマス・クレイン・イーストウェルが20世紀初頭に兄のモリスのために作られました。これらのパネルは、装飾用ガラスが教会だけでなく、一般の家庭にどのように取り入れられたかを示しています。

マーガレット・ワズワースの水彩画 - 1902

これらはペティ・カリーにあるファルコン・コートとレストレス・インを描写しています。それらは以前の画像からコピーされ、記録された場所は現在失われています。彼女の父親はミネラルウォーターの製造者で、芸術と地域取引を結びつけていました。

祖父時計 - 19世紀初頭

この8日間の時計は、ケンブリッジ・プレイス7番地にあるスリー・ピジョンズ・パブの大家ハリー・ブラックの所有でした。フレッチャーとヒッツマンが制作し、時間管理がパブ生活や仕事のルーティンをどのように調整したかを示しています。

チャールズ・ロウエルベルト - 1881

チャールズ・ロウエル（1853～1909）は、ヴィクトリア時代の最も有名なアスリートの一でした。彼は、19世紀に非常に人気を博したプロの長距離ウォーキング・ランニングというスポーツに出場しました。歩行者レースは特別に建設されたアリーナで開催され、一度に6日間続くことがありました。観客は大きな賭けをし、新聞は日々の距離を報じ、成功したウォーカーは全国的な有名人となりました。

ロウエルは耐久レースを専門としており、競技者は6日以内に可能な限り長距離を走り、歩くか走るかを選択しなければなりませんでした。彼の才能は、1878年にアストリーベルトレースを創設したサー・ジョン・アストリーによって見出されました。受賞者は銀のベルトと£500、さらに入場料の取り分を受け取りました。連続して3レースで勝利した男性は、ベルトを永久に保持することができます。

ロウエルは1879年にアメリカで初めてベルトを獲得し、約500マイルを走破しました。一時的に敗北した後、彼は次の3レース連続で優勝し、1881年にベルトを完全に獲得しました。総計で、彼はレースで何百万ポンドもの現代版に相当する金額を稼いだと推定されています。

ロウエルは、家族が経営していたチェスタートンのブリーディングハート・パブで育ちました。彼のキャリアは、ケンブリッジ出身の労働者階級の男性がスポーツを通じて国際的な名声を得る方法を示しています。

巨額の収入にもかかわらず、ロウエルは裕福であり続きませんでした。レースから引退した後、彼はケンブリッジに戻り、経済的に苦労しました。ある時点で、有名な銀のベルトが地元の店で質入れされました。それは後にそれが何であるかが認められ、ケンブリッジ博物館のために救出されました。

したがって、このベルトは二重の物語を語ります。すなわち、並外れた名声と身体的な成果、そして長期的な安全がなければスポーツの栄光が急速に薄れてしまうことです。それはまた、歩行がプロスポーツであり、耐久アスリートが劇場やアリーナを埋め尽くしていた、現代のサッカーや陸上競技が世間の注目を集めるはるか以前に、忘れ去られた世界を映し出しています。

照明キャビネット

19世紀中頃にガス照明が登場する前は、住宅はキャンドルや油灯で照らされていました。・蜜蝋キャンドルは高価でした。・蠟燭の匂いがし、煙が広がりました・油はしばしば魚やクジラから供給されました。

ラッシュライトは、タロウに浸された照明はごくわずかで、最も貧しい世帯によって使用されました。

バー・サーバリー - 19世紀

この珍しい木製のバーのサーバーはかつて飲み物を提供していました。内部の瓶は地元の旅館や醸造所から来ていました。ガラスに刻まれた傷のある名前には、ラブデイ家（元家主）、マグダレーン・カレッジのポーター、そして1937年のメアリー女王の訪問を記念する誤った碑文が含まれています。

ボトルとビール

石器製の壺は18世紀後半に一般的になり、続いてガラス瓶が一般的になりました。初期の瓶は、釉薬の中に醸造者の名前が記載されている傾向がありますが、後期の瓶は印刷されたラベルを使用します。

コッドボトル - 1875

ヒラム・コッドによって発明されたこの瓶は、炭酸飲料の圧力によりゴムリングに押し込まれた大理石で密封されています。少年たちはしばしばそれらを砕き、大理石を取り戻すために、なぜ今日多くが庭に埋もれているのかを説明しました。

ザ・スナッグ

スナッグは19世紀に、メインバーの騒音から離れた快適さとプライバシーのために、飲み物代をより多く支払うことをいとわない裕福な顧客のための小さな個室として作られました。それは、階級と品

位が別々の空間を通じて表現されたパブにおける社会的慣習の変化を反映しています。

害虫トラップ

害虫トラップの展示は、家庭が化学スプレーや近代的な衛生を導入する前に、昆虫やげっ歯類の防除に努めた様子を示しています。

・19世紀のガラス製ハエトラップは、ハエが閉じ込められた場所に内部へ誘い込みました。・1955年製のデーモンビートルトラップは、後の商業的害虫駆除を反映しています。・特許取得済みのマウストラップは、日常的な迷惑行為に機械的な工夫を適用したことを示しています。

1925年にオーキー教授が博物館のために製作したウィッカーワークのベッドバグトラップもあります。彼は自らを、これらのトラップを販売用に製作したことを覚えている最後の熟練のバスケット職人の一人であると述べました。罟は、編み込まれた構造に昆虫を誘い込むためにベッドに設置されます。

これらのオブジェクトは、宿屋や住宅において害虫が常に問題であったこと、そして実用的な工作技術がそれらと戦うためにどのように活用されていたかを示しています。

清掃機器

早期清掃機器の収集は、衛生へのアプローチの変化を示しています。

・カーペットビーターは、屋外で重いカーペットのほこりを除去するために使用されました。・1925年頃のカーペット掃除機は回転式ブラシを使用し、5月24日の帝国記念日を祝う愛国的なシンボルで装飾されています。・初期の掃除機は、手作業から電動機械への移行を示しています。・1936年の驚くほどモダンな外観のフーバーは、電力が普及したことで国内技術がいかに急速に進歩したかを示しています。

ハーベイの折りたたみ掃除機 - 1908年頃

この大型の電気前掃除機は、操作するために二、三人が必要でした。ある人がベローズをポンプで吸引し、別の人がノズルを使用し、時には3人目が機械を押しました。それは、ケンブリッジの金鉱ビジネスであるMacintosh & Sonによって販売され、ディーラーのナンバープレートが付いています。それはゴンヴィル・アンド・カイアス大学で使用され、大学がほとんどの民間住宅よりも先に省力装置を採用したことを示しています。

テレビとラジオ

放送技術のディスプレイは、余暇が家庭にどのように取り入れられたかを示しています。

・1950年代初頭のパイテレビは、1953年にエリザベス2世女王が戴冠した後のテレビ所有のブームを反映しています。・1965年製のソニー製ポータブルテレビは、キングストリーのブラウン家が所有しており、キャラバンの休日に使用されました。・1930年代のPye「Sunburst」ラジオは、ケンブリッジ産業が電子機器に果たす役割を示しています。

これらのオブジェクトは、共有された公共エンターテインメントがプライベートな家庭空間へと移行した様子を示しています。

Pye Ltd – ケンブリッジ・エレクトロニクス・カンパニー

Pye Ltdは、ウィリアム・ジョージ・パイによって1896年にケンブリッジで、科学機器メーカーとして設立されました。同社はその後、1920年代にラジオ製造へ事業を移し、英国の主要な電子機器企業の一つとなりました。

第二次世界大戦中、パイはレーダーおよび軍事通信装置の製造に重要な役割を果たしました。戦後、イギリス全土およびコモンウェルスで販売されたラジオやテレビの製造で有名になりました。

ピーク時、Pyeは数千人の地元住民を雇用しており、特にNewmarket RoadとColdham's Laneにある工場で顕著でした。ケンブリッジの多くの家族には、少なくとも1人のメンバーが同社に勤務していました。

この部屋におけるPyeテレビとラジオの存在は、国内の技術変化と地域産業を結びつけます。これらのセットは単なる消費財ではなく、ケンブリッジが現代の電子機器や戦時科学において果たした役割の証拠です。

コーヒースタンド - c.1850

この刺繍入りコーヒースタンドは、ビーズで装飾されたベルリンウール製です。デザインにはコーヒーポット、カップ、ジャグが表示されており、コーヒーの提供時に使用されたことを示しています。

ベルリンのウール作業パターンはドイツで印刷され、ヨーロッパ全域へ輸出されました。鮮やかな色彩とビーズ装飾は、1850年代または1860年代の年代を示唆しています。このスタンドは、礼儀正しい社交儀式と、飲み物を魅力的に提供することの重要性を表しています。

ウェディングケーキのオーナメント - 18世紀後期

この小さな新郎新婦用オーナメントはマジパンで成形されており、かつてウェディングケーキの上に立っていました。それはクリスト・カレッジのプライス博士によって寄付されました。どのカップルを表していたかは分かりませんが、結婚式が装飾的な象徴と食用アートでどのように彩られたかを示しています。

ホーンカップ

この飲料容器は、磨かれた牛の角から作られています。ホーンカップは、安価なガラスが入手可能になる前は一般的で、日常の飲用と伝統的な材料を結びつけていました。

記念中国

このケースには、ヴィクトリア女王のダイヤモンド・ジュビリーを含む公共イベントを祝うために作られた皿やカップが入っています。それはまた、1884年に設立されたキャッスル・エンド・ミッションの食器類も含まれており、ケンブリッジの貧困地区で働く男性を教育することを目的としています。これらの物は、家庭生活と慈善、そして市民の誇りを結びつけます。

ガラスフロアスタンド

このケースには以下が含まれています：・スプーンウォーマー（c.1860）・クリームジャグ（c.1840）・グラスとトディスティック・ガラス製の麺棒・礼拝堂の形をしたティーキャディで、メアリー女王が博物館を訪問中に寄贈したもの

これらのオブジェクトは、礼儀正しい家庭で飲み物やデザートがどのように調理され、提供されたかを示しています。

キッチン

現在のキッチンは18世紀に建物に追加されました。以前は、すべての調理はバーエリアで、大きなオープンハースを使用して行われていました。独立したキッチンの追加は、旅館や家庭における清潔さ、整理整頓、快適さに対する考え方の変化を反映しています。

キッチンは洗濯スペースとしても機能しました。ホワイトホース・インの大家は、週に1日リネンを洗濯し、もう1日は乾燥とアイロンがけに費やしていました。家族の記憶によれば、シンクの戸棚は暗く、陰鬱で、クモがたくさんいました。1851年の国勢調査では、宿屋に滞在している5人の宿泊客が記録されており、厨房は家族生活と商業的なもてなしの両方を支えていました。

パイ、ゼリー、プリン型 - 19世紀

壁面キャビネットには、盛り上がったパイ型、銅製ゼリー型、プリン型が入っています。これらの型は食べ物を装飾的な形に形作り、シンプルな食事でさえも魅力的に提供されていることを示しています。ゼリー型は、砂糖とゼラチンがより手頃になったため、18世紀から19世紀にかけて人気が高まりました。彼らの精巧なデザインは、家庭の技術とおもてなしへの誇りを反映しています。

洗濯機および洗濯設備

デイジー洗濯機

この木製機械は、ハンドルを前後に動かすことで、内部の木製リブを回転させました。服はまず水に浸し、その後手で攪拌しなければなりませんでした。側面に印刷された指示は、技術がハードな肉体労働を標準化しようとした様子を示しています。

自動洗濯機

1900年頃にアクリントンで製造されたこの機械は、下部にガスリングを使用して水を加熱します。洗濯物はハンドルを動かすことでかきなされ、背面に取り付けられたマングルが水を絞り出しました。それは、人間の努力に依存しつつも、家事労働を機械化しようとする初期の試みを表しています。

洗面槽、ドリーペグ、洗濯板

機械が一般的になる前は、洗浄はバケツでドリーペグを使用して熱湯をかき混ぜていました。頑固な汚れは洗濯板でこすり落とされました。これらの物体は、特に大家庭や旅館において、週ごとの洗濯がどれほど疲れるかを示しています。

コーヒー・パーコレーターと電気ケトル - 1920年代～1930年代

壁面ディスプレイには、約1926年製のコーヒーパーコレーターと、1930年代の初期電気ケトルが含まれています。当時、電気ケトルは高級品であり、ほとんどの人は依然として開いた炎で水を沸かしていました。銅製のやかんは、熱伝導が良好だったため、好まれました。これらの物体は、火ベースの調理から電化製品への徐々の転換を示しています。

鍋とミルク計量

鉄製の鍋は、18世紀に調理用レンジが導入されるまで、銅の代わりに使用されていました。銅は開いた炎で溶けることができるためです。

牛乳計量は、牛乳配達員が大きなチャーンからの牛乳を顧客自身のジャグに注ぐために使用されました。各措置は、正確な数量を保証するために地方自治体によって押印されており、日常の食事が不正防止のためにどのように規制されているかを示しています。

エレクトロラックス 冷蔵庫 - c.1927

この冷蔵庫は家庭生活における大きな変化を表しています。冷蔵庫が閉まる前は、人々は毎日新鮮な食べ物を買物していました。1939年までに、約20万世帯の英国世帯がそれを所有していました。広範な冷蔵庫の所有が到来したのは1950年代になってからでした。冷蔵庫は食品を安全に保存できるようにし、日常の市場への依存を減らし、買物習慣や食生活を変えました。

大学用キッチン機器

フードプロセッサー

この約1900年製の手動プロセッサは、ボウルを回転させるハンドルを回すことで、ブレードを上下に調整して動作しました。それは、大きなキッチンで時間を節約しようとする初期の試みを示しています。

アイスクリームメーカー

1910年頃の手作りアイスクリームメーカーは、凍った際にクリーム、砂糖、フレーバーをかき混ぜ、氷結石の形成を防ぎました。それは、電気を使わずに高級食品がどのように生産されたかを示しています。

リンゴピーラー

Sによって作成されました。Nye & Company、この機械はリンゴの皮むきと芯取りを一回の動作で加工します。それはクレア・カレッジの厨房で使用され、部屋を機関の食料生産と結びつけました。

アイロンと暖房

フラットアイロン

これらの固体アイロンは火で加熱され、ペアで使用されたため、一方は再加熱でき、もう一方は冷却されました。

ボックスアイロン

これらは、熱い金属ブロックや炭、あるいは後にメチル化された蒸留酒用の空洞内部を備えていました。

ブーツまたはシュー用ビールウォーマー

エールまたはサイダーを詰め、火で加熱するこの装置は、冬に飲み物を温めます。ラムやブランデーと混ぜると、その飲み物は「フリップ」となり、船乗りや祝祭の飲酒と結びついています。

圧着機 - 19世紀

ドレスメーカーがフリルやリボンを作るために使用したこの機械は、中空ローラーが熱い金属棒で加熱されています。それは、衣服の装飾に専門的な道具が必要であることを示しています。

タリー・アイアン - 19世紀

“Tally”はイタリア語のtagliaに由来します。このアイロンはリボンとリボンを滑らかにしました。ロッドは加熱され、金属スリーブの中に入れられ、保温性を保ちました。圧着機のように、キッチンの熱と衣類の製造を結びつけます。

客室

この部屋は、下にあるキッチンと同様に、元の17世紀の建物に18世紀の増築であり、ホワイトホース・インに宿泊する裕福な旅行者が利用していたと考えられます。ゲストはしばしば見知らぬ人と部屋を共有し、時にはベッドを共有することもあります。旅館が最初にオープンした際、約30名収容可能だったため、後に追加の部屋を加えてもプライバシーは制限されていました。

コーナークローゼットはウィッグのパウダー加工に使用され、余分なパウダーを窓から振り落としました。この部屋の展示は、ケンブリッジの人々の生活と、町と関わりのある著名な人物に関するものです。

オールド・キャッスル・ホテル・サイン - 約1830年代、リチャード・ホプキンス・リーチ

このパブの看板は、旧城ホテルにインスパイアされた城の風景を示しており、現在はセント・アンドリュース通りにある城パブです。門はキリスト・カレッジの入口に似ており、ケンブリッジの宿屋が大学の視覚言語を借用して、品位ある姿を映し出しています。

このシーンは、背景に兵士と船が描かれ、ナポレオン戦争中の侵略への恐れに関連しています。1797年から1815年の間、イギリスはいつでもフランス上陸を予期しており、川や道路でワシントン川とロンドンと結ばれたケンブリッジは国防計画の一部でした。インズはニュース、採用、そして愛国的な展示の中心でした。

彫刻されたタバコ販売者のフィギュア

この彫刻された像は、かつてシドニー通りのタバコ店の外に立っていました。ラベルは当初、左側の人物をアフリカの奴隷、右側の人物をトルコ人と記述していました。17世紀になると、ヨーロッパ人はタバコをアフリカやアメリカ大陸と結びつけていましたが、店の

看板はその取引を暴力的で搾取的というよりも、エキゾチックで華やかなものとして提示しました。

これらの画像は、タバコが植民地のプランテーションで奴隷労働によって生産されたという現実を隠していました。彼らは、強制労働ではなく外国の支配者との正当な貿易を提案し、顧客がタバコをその人的コストに直面せずに消費できるよう支援しています。この図は、したがって、植民地時代の搾取が英国の観客に対して視覚的に緩和された様子を反映しています。

聖書箱 - 17世紀

この小さな木製の箱は、聖書を保管し、輸送するために使用されました。本は高価で、聖書はしばしば家族やコミュニティ内で共有されていました。空白のページは、出生・結婚・死亡の記録に使用され、宗教的記録と家族的記録の両方となりました。

オークチェスト - 17世紀、ウィリアム・ローパー

この大きなオーク製のチェストは、キングス・パレードのキャビネット職人ウィリアム・ローパーが販売した、ケンブリッジの初期の家具です。それは後に、ケンブリッジの建設業者兼測量士であるウィリアム・カストンスが所有していました。それは、地元の職人業者が国内の家具を供給し、古い品物を再利用して転売した様子を示しています。

ジェームズ・バーレイのワゴンのコルク模型

ジェームズ・バーレイは、ナポレオン侵攻の脅威の際に、東イングランドから人々を避難させることを申し出たケンブリッジの空母でした。バーレイ・ストリートは彼の名前にちなんで名付けられました。このモデルは、牛が自分のワゴンの一つを引く様子を示しており、交通ネットワークが貿易と緊急時の計画の両方において中心的であったことを示しています。

ペンブロークテーブル c.1836-44、ヘンリー・ターナー

このマホガニー製テーブルは、ブリッジストリートのヘンリー・ターナーによって製作または販売されました。ターナーはキャビネット製作と他の職業を混同し、大学生をビリヤードに招待した後、彼らを楽しませることを禁じられました。このテーブルは、家具職人が立派な職人技と道徳的疑念の間で不安定に暮らしていた様子を映し出しています。

オリベッティ タイプライター

1926年から1976年までアレクサンドラ通りにあるサマーズ氏の陶芸店で使用されたこの機械は、小規模事業における近代的なオフィス技術の到来を象徴しています。それは今日のハイエンドコンピュータと同等の費用がかかり、初期の機械がいかに高価であったかを示しています。

標準測定と紳士のポケット

このケースには、1646年の町の寸法と、紳士が携えていた品として、懐中時計、ソブリンケース、名刺入れが入っています。それらは合わせて、貿易の規制と社会的尊厳の遂行を示しています。

オブジェクトの書き込みと封印

レターライター、ペン、印章、インク壺は、電話やメールの前に手書きの文書や正式な文書作成の重要性を示しています。

エリザベス・ウッドコック

1799年、エリザベス・ウッドコックは吹雪の中で馬から投げ落とされ、漂流に8日間埋められた後、生きたまま救助されました。彼女の生存は全国的なニュースとなり、彼女の村に記念碑が建てられました。

ジェイコブ・バトラー

ジェイコブ・バトラーは「ザ・スクワイア」として知られ、裕福で訴訟を名高いケンブリッジのバリスターでした。彼は身長が6フィート4インチで、法的争いに執着していました。人生の終盤

に、彼は巨大なオークの棺を委託し、訪問者にそれをご覧いただくよう招待しました。

弓形前部日本製キャビネット - 1740年代、エリザベス・ホブズ

このキャビネットは、1699年から1803年まで生きたエリザベス・ホブズの所有物でした。これは、東インド会社の貿易に触発されたアジア漆工芸のイギリス風模倣であるジャパニングの例です。それは、グローバルな商取引が国内の嗜好にどのように影響したかを反映しています。

リントン（ケンブリッジシャー）製ロングケース時計

この時計は、農村の職人技と家庭生活における時間計測を象徴しています。

トーマス・ホブソンの肖像 - 17世紀

トーマス・ホブソンは、ケンブリッジの運送業者で、ケンブリッジとロンドンの間で人々、貨物、郵便を輸送していました。彼は馬の厳格なローテーションを強制し、「ホブソンの選択」というフレーズを生み出した。ホブソンは、水供給や貧困層のための住宅を含む公共事業に資金提供しました。彼の遺贈は、もともと刑務所ではなく、困窮者のための労働宿として意図されたスピニングハウスの設

立に寄与しました。時間が経つにつれて、学生に対する不道德な行為で告発された女性たちが大学当局に拘束される場所となった。

ダイニングルーム

これはかつての宿屋で最大の部屋で、おそらく川の取引や近くの牛市場に関係する商人同士のディナーパーティーや会合に使用されていたと考えられます。後年になると、それはエンターテインメントや会合の場となり、タウン・アンド・ガウン・サイクル・クラブの集会も含まれていました。必要に応じて、寝室としても使用できます。ここに展示されている物は、大学とケンブリッジの町、そして過去300年間ここに住み働いてきた人々の日常生活に関係しています。

Degree Morning、ケンブリッジ、ロバート・ファレンの後、1863年

この画像は、Degree Morningに上院議事堂の外に集まった100名以上の大学要人を描いた合成画のコピーです。オリジナルの絵画はトリニティ・カレッジで所蔵されています。このイメージは儀式、階層、学術的な力を強調し、大学を周囲の町とは異なる閉鎖的で秩序ある世界として提示しています。

市長の椅子 - 18世紀

この威圧的な椅子は、ケンブリッジの代々の市長によって使用されました。マホガニーのフレームと手縫いのレザーシートと背もたれで作られ、市民の権威と尊厳を象徴しています。その高さで王座のような外観は権力を表していたが、市長の権限は常に大学の副学長に従属していた。町とガウンの争いにおいて、副学長が通常勝利し、ケンブリッジにおける市民的リーダーシップが学術的支配の下で存在していたことを示しています。

マフィンマンのヘッドピース - 19世紀

このパッド入りのヘッドピースは、マフィン売りのクラスク氏が、トレイを頭に乘せてバランスを取り、鐘を鳴らしてケンブリッジの街への到着を告げて身に着けました。それは、店舗やベーカリーが広く普及する以前の街頭取引と食品流通を表しています。

青いガラス製塩容器 - 19世紀初頭

これらの容器はボトルガラスで作られています。塩はナポレオン戦争の間、厳しく課税され、密封された容器に保管されました。船員はしばしばラブトクンなどの物を贈り、時には暖炉の近くに掛けられ、保護と価値の物としてほぼ魔法のような意味合いを得ました。

バターバスケット - 19世紀

このバスケットは、ブロックではなく、長いストリップで販売されたバターを保管するために使用されました。ケンブリッジでは、バターの分量は大学が町の食品基準と価格管理の一環として規制していました。バターは標準的な長さに成形され、購入者が適正なサイズを受け取っていることを確認できるようにしました。このバスケットは冷蔵前の食品保存を反映し、学術的権威が日常生活にどのように及したかを示しています。

アクアティック・スキttlル・ピン - 1896

1896年から1899年にかけて水中スキttlルズのゲームで使用されたこのピンは、短命のスポーツ様式を反映しています。それはキューピッド中佐によって寄贈されたもので、彼の父親がゲームを発明したと考えられています。

ティルヤードチェア - 1860年代

この刺繍の椅子はティルヤード家のために作られました。ゴシック様式のオークフレームと、ベルリンウール加工の背面を備えています。クッションには「May you be happy」というモットーが刻まれており、結婚祝いの贈り物だった可能性があることを示唆しています。それは装飾的な家庭工芸と中産階級の快適さと感情の価値観を表しています。

メアリー・シャーロット・グリーンの絵画 - 19世紀中頃

メアリー・シャーロット・グリーンは、ケンブリッジの歴史と物理的発展と強い関係があります。彼女の作品は、大学が拡大し町が再開発された19世紀から20世紀初頭にかけて、後に取り壊されたり根本的に変更されたりした通り、旅館、裁判所、作業エリアの貴重な視覚的記録を提供しています。

多くの正式な学術アーティストとは異なり、グリーンは普通の都市空間、すなわち庭や路地、店舗の正面、そして控えめな建物に焦点を当てました。これらは儀式というよりも日常生活に結びつく場所であり、彼女の絵画は当時、芸術的な注目に値するとはほとんど考えられなかった場面を保存しています。

彼女の仕事は特に重要です。なぜなら、全道路が新しい大学建築のために整備され、道路が拡幅され、排水が改善された際に消失したケンブリッジの一部を記録しているからです。彼女の絵画を通じて、大学開発が市中心部を再構築する以前、かつて大学の近くに住宅と商業が混在していた地区が今なお見ることができます。

グリーンの絵画は、したがって、歴史的証拠であると同時に芸術作品としても機能します。彼らは、ケンブリッジが単なる大学都市であるだけでなく、人口密度の高い働く都市であったことを示し、制度的成長が長年続くコミュニティの喪失を伴うことが多いことを私たちに思い起こさせます。

Purchas Chest - 1818

この真鍮製のクランプ式オーク製の箱は、1817年から1831年の間に5回市長を務めたジョン・パーチャスの所有物でした。プルチャス家の何世代にもわたって市民役職を務め、その宝箱は富と自治体の継続性の両方を反映しています。

雄鶏の風防風 - 1856

この銅製の風防風機はミルロード墓地の礼拝堂から来ており、サー・ジョージ・ギルバート・スコットによって設計されました。この墓地は1848年にケンブリッジで最初の市営墓地として開設され、町の教会墓地が過密で深刻な健康リスクとなっていたために創設されました。それはヴィクトリア朝時代の公共の衛生、計画、そして立派な埋葬への配慮を反映しています。

1856年に完成した墓地の礼拝堂は、道徳的真剣さとキリスト教の希望を表すためにゴシック・リバイバル様式で設計されました。雄鶏の風向計はかつて屋根に冠をかぶり、実用的な風向きの指標として、またキリスト教における警戒と復活の象徴として機能しました。

礼拝堂は1954年に取り壊されましたが、墓地は依然として重要な歴史的景観であり、多くの一般市民や著名な人物の墓が含まれています。風見天台の存続は、失われたヴィクトリア様式の建物の断片を保存し、19世紀における死への姿勢、追悼、公共空間の変化を示しています。

木製雨水ヘッドモールド - 19世紀

これらの型は、トリニティ・カレッジの建物で雨水ヘッドを鋳造するために使用されました。イニシャル「WW」はウィリアム・ウィーウェル、トリニティのマスターを意味します。ウィーウェルは「科学者」や「カタストロフィズム」といった語を作り出し、知的生活と都市の物理的形成との関係を示しています。

レース枕とボビン - 19世紀

Streetly EndのMay Mallionが寄寄ったこの枕とそのボビンは、農村の工芸伝統と女性の有償家事労働を象徴しています。

ストゥールブリッジフェアで使用されたスチールヤード

この計量装置は、かつてヨーロッパ最大の中世見本市であったストアブリッジ・フェアで使用されました。その祭りは1199年に始まり、毎年1か月以上続きました。ヨーロッパ各地からの貨物がここで取引され、スチールヤードはケンブリッジが商業拠点であると同時に大学都市としての役割を象徴しています。

戴冠式ディナー印刷 1838

このプリントは、ヴィクトリア女王の戴冠式を祝うために、パークーズ・ピースで開催された「相応しい貧困層」15,000人のためのディナーを示しています。それは膨大な量の食料と飲料を記録し、市民の忠誠心と慈善が大衆的な光景を通じてどのように示されたかを示しています。

カメの甲羅 1903

クレア・カレッジの紋章で描かれたこの貝殻は、恩人の饗宴を記念しています。カメのスープは当時的高级料理であり、貝殻はエリート食文化を象徴しています。

ケンブリッジのジェームズ・ウォード絵画

1840 – キャッスルヒルからの眺め

この絵は、近代的な拡張が開始する前の広大な田園に囲まれたケンブリッジを示しています。かつてノルマン城の所在地であり、後に郡の刑務所へと改装されたキャッスルヒルからの眺望は、権威と監督を象徴しています。前景の人物は、地元の少女たちに同行されたガウンを着た学生です。これらの人物はワードの元のスケッチには存在せず、後にシーンをアニメーション化するために追加されました。彼らの存在は社会的に緊張感があります。19世紀のケンブリッジでは、学生と一緒にいる女性は大学の監督者に止められ、トーマス・ホブソンが残した資金で創設された作業場であるスピニングハウスへ連行されました。

ウォードはケンブリッジの居住者ではなく、この道徳的警察制度について知らなかった可能性があります。学生と少女を開かれた平和な風景の中で加えることにより、彼は女性の行動に対する厳格な規制という現実と対照的な理想化されたイメージを作り出した。この絵は、示されているものと隠されたものについて考えるよう私たちに促します。

キングス・パレードの水彩画

19世紀初頭、ジョン・マーシャル

これは、古代の家屋とコテージが後に取り壊されたことを示しています。大学の拡張は、大学や式典用建物のスペースを作るために通り全体を取り除くことで、ケンブリッジを一新しました。その絵は、もはや存在しない通りを記録し、制度的な成長が都市コミュニティの喪失を伴うことを私たちに思い起こさせます。

第二次世界大戦におけるケンブリッジ

第二次世界大戦はケンブリッジの日常生活を変えました。避難児童は爆撃された都市から到着し、大学や私邸に収容されました。大学の建物は、軍事や科学的な業務、特にレーダーや兵器の研究のために引き継がされました。ブラックアウト規制は夜間の生活を変え、配給は食料と買い物の形を変えました。多くの家庭が豚や鶏を飼っ

ており、「Dig for Victory」キャンペーンの下で公園や大学の敷地に区画が現れました。

女性は新しい雇用形態に就きましたが、年配の男性はホームガードに加入しました。イギリス、英連邦、アメリカ合衆国の兵士が近くに駐屯し、地元のパブやダンスホールに新しい文化をもたらしました。戦争は町とガウンの境界を曖昧にし、大学は病院、兵舎、訓練センターとなった。

フェン・アンド・フォークロア・ルーム

この部屋は、ケンブリッジシャー・フェンスの生活を探求します：水、迷信、労働、そして耐久によって形作られた湿地の風景です。何千年もの間、沼地は湿地であり、氷河期以降に形成された浅い湖でした。エリー、マーチ、ウィトルシーなどの集落は、乾燥した土地の高床式「島」に成長しました。河川や排水管がこの地域をウォッシュ川と北海と結びつけ、フェンズは孤立していると同時に、貿易によって国際的に結びついています。

17世紀の大規模な排水計画は、コーネリアス・ヴァーミューデンらの技術者が主導し、湿地を農地に変えました。排水された土地は非常に価値が高くなりましたが、多くのフェン族は漁業、野鳥、リード刈りに基づく伝統的な生計を失いました。排水に対する抵抗により、地元住民は「フェン・タイガース」というニックネームを得ました。

沼地の地図

この地図は、エリーとウィスベックを北へ通る湿地帯と水路のかつての範囲を示し、キングス・リンとワッシュまで至っています。それは、フェンランドの生活が船や堤防、季節的な洪水に依存していることを示しています。

ウィッチクラフト保護オブジェクト

このキャビネットには、魔女から守るために家に埋められた物、すなわち動物の骨、釘、鉄棒、そして瓶が含まれています。沼地では、病気や家畜の死亡、作物の不作がしばしば悪意ある魔法のせいになされました。

コッテナムのロードシップ・マナーで見つかった魔女の瓶は、壁の中に隠されていました。そのような瓶は、有害な霊を捕らえるために、髪の毛や爪、または尿で満たされていました。窓に掛けられた青いガラスの球体である魔女の球は、魔女たちを魅了し、家に入るのを阻止すると信じられていました。フォークロア・ソサエティ・コレクションの粘土フィギュアであるコープ・クィアは、ヨーロッパ版のブドゥー人形を表し、同情的な魔法で害を与えるために使用されます。

わな

この鉄のマントラップは、密猟者を捕まえるために低木に設置されました。脚がはねて閉じ、工具がなければ開くことができませんで

した。その存在は、厳しい地方の法執行と、生き延びるために違法に狩猟した人々の絶望を反映しています。

民俗とカスタムオブジェクト

このケースには、虫歯痛用のモグラの足、聖金曜日のパン、四葉のクローバー、そして求愛の贈り物というチャームとトークンが含まれています。これらのオブジェクトは、信念と医療が日常生活の中でどのように重なり合っているかを示しています。

フェンスケート

フェンスケート、あるいは「フェンランナー」は、ブーツに装着されたシンプルなブレードでした。冬に氾濫した畑が凍結したとき、スケートは交通手段とスポーツの両方となった。フェンスケーターは、トルコ・スマートやウィリアム・“ガッタ・パーチャ”・スマートを含む世界チャンピオンとなりました。

1879年に、全米アイススケート協会がケンブリッジで設立され、競技を規制しました。フェンスケーターは、スピードと持久力で有名でした。スケートは単なるレジャーではなく、日常生活の一部であったからです。

Rippingill ポータブルオーブン

この携帯用パラフィンオーブンは、ボートや畑で使用されました。それは、漁業や農業の際に自宅から離れた場所で食事が調理されたフェンランドの移動性と労働生活を反映しています。

モーゼス・カーター、ヒストン・ジャイアント

これらのブーツと帽子は、ヒストンのモーゼス・カーター（1810～1860）に属していました。身長は約7フィート、体重は23ストーンで、彼はその強さで地元の伝説となった。彼はヒストン・ムーアで野菜を栽培し、手運び車でケンブリッジへ運びました。

モーセはストアブリッジ・フェアで金銭を争い、かつて大きな石をヒストン村へ運んで賭けに勝ちました。その石はまだブーツ・パブの外にあります。彼の物語は、トム・ヒッカスリフトのような巨匠たちと共に、フェンの民話と結びついた。

バスケットメーカーのツールとイールグリグ

コッテナムのJ・マンティエが使用したウィローバスケットの道具は、伝統的なフェン工芸を示しています。ウナギのグリグは、ミミズで餌付けされた編み込まれた罠で、川に設置されています。ウナギは重要な食料源であり、広く取引されていました。

フェンとは何ですか？

沼地は、最後の氷河期の後に氾濫した湿地でした。それらを排水したことで、現在「イングランドの砂州」と呼ばれる肥沃な土壌が作られました。村や町は、湿地の周囲の水平よりわずかに数フィート上にある「島」の上に成長していました。排水はローマ時代にはすでに始まっていましたが、17世紀以降は大幅に増加しました。コミュニティはしばしば非常に孤立しており、コミュニケーションは主に水によるものでした。生活は非常に厳しく、停滞した水と関連するフェンアグなどの病気は風土病でした。アヘンとアルコールは医薬品として一般的に使用され、ケシは地元で栽培されていました。

プラウ・マンデーやストローベア、メーデーの泥炭の焚き火、そしてハーキーと呼ばれる収穫祭などの季節の慣習は、水と労働によって形作られた過酷な風景における生存を映し出しています。

芸術と職人の部屋

この部屋は、ケンブリッジおよび周辺の村々に住む一般の人々の創造的スキルを探求します。それは、芸術と職人技が日常生活の一部であったことを示しています。有料の職業として、あるいは家庭での趣味として実践されていました。その部屋自体は、かつて通りの上に突き出した上層の堤防で、近くの他の中世の家屋と同様でした。1930年代に、このオーバーハングは取り除かれ、現在ご覧になる窓に置き換えられました。

こちらの展示物は、音楽、衣服、装飾品、家庭用品が、しばしば家庭から受け継がれたシンプルな道具や伝統的知識を用いて、どのように作られたかを示しています。

ホースサンボンネット

この藁の編みのボンネットは、作業馬が目をハエから、頭を太陽から守るために着用しました。トラクターやトラックが使用される以前、馬はケンブリッジ周辺での農業、輸送、配達業務に不可欠でした。ボンネット作りは、より広範な藁の藁細工産業の一部であり、工芸技術が動物福祉と人間の労働の両方を支えていたことを示しています。

帽子職人の作業台と工具

この作業台は、ケンブリッジにある最後の民間の帽子職人の一つに属していました。帽子作りは通常、ルートンやベッドフォードシャーと結びついていますが、ここでも重要な地域取引でした。

上段の引き出しは折りたたんで、小さなオフィスを形成し、鳩の穴と緑色のバイゼの筆記面を備えています。木製の型は、ボンネット、ボウラー、トップハットを含むさまざまなスタイルの帽子を形作るために使用されました。フェルトまたは藁は蒸し、これらの型の上に伸ばし、その後手作業でトリミングし、裏打ちしました。ベンチは、一人の職人が作業場、店のカウンター、オフィスを一つの

家具に組み合わせた様子を示しており、工場製造ではなく小規模な都市生産を反映しています。

ストロー編みディスプレイ

麦わら編みはイングランド東部で長い歴史があります。中世において、収穫作業員は自分の帽子のために藁を編みました。18世紀から19世紀にかけて、麦わら帽子が流行し、編みは女性と子供にとって重要な収入源となりました。

編み用に、レッド・ラマスやゴールデン・ドロップなどの特別な品種の小麦が栽培されました。藁は細い帯状に分割され、割れるのを防がれるように湿った状態が保たれました。プライターは、湿った藁を腕の下、さらには口の中にも保持し、しばしば唇の角をひどく切り、傷跡ができるほどでした。

レース作りとは異なり、藁編みはほとんど器具を必要とせず、歩きながら、入口に座っている間、または子供の世話をしながら行うことができました。ナポレオン戦争中、上質なイタリア産編みが輸入できなかった際、熟練したイギリス製編み職人は高賃金を得ることができました。その後、安価な輸入品が貿易の減少を招き、多くの家族を再び貧困に追い込んだ。

レースとレース作り

このガラス製のキャビネットには、レースの枕とボビンが入っています。ボビンレースは16世紀からイングランドで作られています。初期のボビンは骨で作られ、後期のものは木材から旋削され、重さとバランスを保つためにビーズで装飾されました。

ボビンは、枕のピンで留められた模様の上でレースを編みながら、糸の張力と動きを制御するのに役立ちました。ケンブリッジシャーのボビンは特に装飾的であり、道具でさえ美しい対象となり得ることを示しています。

レース作りは、女性や子どもが自宅で行うことが多く、農村地域において重要な収入源を提供していました。藁編みのように、家族は有給の仕事と育児、家事を両立させることができました。

ダルシマー

このデュルシマーは、ハスリングフィールドに住み、後にスリプロウ・ヒースへ住んでいた地元の農家兼音楽家、ジョージ・ウィルモット・ローレンスによって作られました。それは、ウールで縛られた小さな棒ハンマーで弦を叩くことで演奏されます。

ローレンスは、宴会や祭り、村の踊りでデュルシマーを作り、演奏しました。エニッド・ポーターは著書『Cambridge Customs and Folklore』において、ケンブリッジシャーで踊るための音楽はしばしばフィドル、コンサートナ、デュルシマーによって提供されていると記録しています。この楽器は、音楽が農村の社交生活の一部で

あり、結婚式や収穫の饗宴や祭りを記し、工芸とパフォーマンスが密接に結びついていることを示しています。

ジョン・フレデリック・モートロックのシルエット - 1830

このシルエットは、裕福なケンブリッジの銀行家系の子孫であるジョン・フレデリック・モートロックを示しています。モートロックは、叔父に遺産をだまし取られたと信じていた。1842年、彼は拳銃で彼を脅し、未遂殺人の罪で起訴されました。彼はオーストラリアへの21年間の輸送刑を言い渡されましたが、後にイングランドへ帰国しました。

シルエットは19世紀初頭、手頃な価格の肖像画の形態であり、油絵よりも安価でしたが、依然として個人的な肖像として評価されていました。この例は装飾芸術と劇的な個人史を結びつけ、流行的なイメージ制作が紛争やスキャンダルの物語をどのように保存できるかを示しています。

町の叫び手の肖像と鐘

この肖像画は、ケンブリッジの街の叫びであるアイザック・ムールが、1833年に55歳のときに描いた様子を示しています。その横には、彼が街で公式アナウンスを大声で読む前に注意を引くために使用した鐘があります。町の叫び手は、新聞が広く入手可能になる前に、法律や裁判所の判決、公共の通知を伝える主要な手段でした。鐘と肖像は、音とパフォーマンスが市民権の一部であったこ

と、そして一人の個人が町の生きた声となったことを示しています。

サンプラーとベルリンウール作品

壁に掛けられた刺繍サンプラーは、通常、女子が教育の一環として作っていました。初期のサンプラーはステッチを記録し、後期のものは文字や数字、そして道徳的な教訓を教えました。それらは学習と技能の証明として機能しました。

ベルリンのウール作品は、1820年代から人気があり、ヨーロッパ全域で販売された印刷されたカラーパターンを使用しました。1840年代までに、約14,000のデザインが利用可能でした。これらの装飾的な画像は、余暇に過ごす女性たちによって制作され、中産階級において工芸が必需品から娯楽へと変わった様子を示しています。

協奏曲

ガラスケースに入っている協奏曲には、19世紀中頃にオーキントン出身のジョー・ドゲットが演奏した英語の協奏曲が含まれています。イングリッシュ・コンチェルティナは1829年にチャールズ・ウィートストンによって特許取得され、尊敬すべきパーラー楽器として人気を博しました。

アコーディオンとは異なり、それは路上演奏ではなく、礼儀正しい家庭音楽の制作に結びついていました。ここに存在することは、音楽が階級の境界を越え、村の踊りから応接室へと移行したことを示しています。

ミシン

2台のミシンがこの革命的な発明の開発を追跡しています。ミシンが作られる前は、男性のシャツを手作業で作るのに14時間かかることがありました。ドレスは10時間かかることがあります。機械を使用すれば、これが約1時間に短縮されました。

家庭用ミシンは女性の時間を解放し、在宅で有給の仕事を受けたり小規模事業を運営したりできるようにしました。これにより、家族の経済が変革され、産業の成長が促進されました。ミシンは19世紀における最も重要な技術の一つであり、衣服や労働、日常生活を変革しました。

子どもの部屋

この部屋は、過去2世紀にわたるケンブリッジの子供時代、家族生活、教育を探求しています。チャイルドフッドルームとそのすぐ下の部屋は、もともとホワイトホース・インの隣にある店の一部でした。記録によれば、最初は魚屋の店で、後に菓子店に変わった。ここにある展示は、現代の安全基準や教育制度、そして大量生産されたおもちゃが普及する以前に、子どもたちがどのように世話され、教えられ、楽しまされていたかを示しています。

ベビーランナー - 18世紀

壁に取り付けられているのはベビーランナーです。床から天井まで柱が走り、上部にピボットがあり、子供の腰に木製のフープが装着されています。これにより、赤ん坊は危険な場所に到達することなく、部屋の中を安全に移動できるようになりました。

オープンファイヤーで暖められた住宅では、この装置は子供が炎に落ちたり、鍋を下ろしたりするのを防ぎました。今日では制限的に見えるかもしれませんが、これは家庭の安全が監督や児童保護ではなく、身体的拘束に依存していた時代を反映しています。

ドールケース

ケースの上部には、約1910年から1920年の間にドイツでアルマン・マルセイユが製作した人形が飾られています。彼女の頭部は複合材料で成形されており、四肢はゴムで接合されています。彼女の服は手作りで、おそらく所有者の母親によるもので、親が工場製の玩具に個人的な労働を加えている様子が示されています。

以下は、約1760年から1780年頃のジョアンナという木製の人形です。彼女は博物館のコレクションの中で最も古い品の一つであり、1937年に寄贈されました。彼女の頭部と体は、木にゲッソでコーティングされ、塗装されています。彼女の四肢はレザーで詰められており、リネンの下着を含む現代的な大人服に合わせて慎重に作られています。裕福な家庭だけがそのような玩具を手に入れる余裕があり、彼女は特権の象徴となっています。

また、ケースには1908年製のテディベアがあり、マルゴ・コレットへのクリスマスプレゼントとして、3シリングと6ペンスで購入しました。このような初期のクマは、耐久性を重視して設計されたものではなく、粗野な玩具というよりは、しばしば大切な仲間として扱われていました。

ダーウィン・ファミリー・コット

このマホガニー製のコットは、ダウンハウスのダーウィン家に属していました。それは、ケンブリッジ・チャイルドフッドを英国で最も有名な科学的家族の一つと結びつけ、幼児ケアに関する考え方が中産階級の間でどのように広がっているかを示しています。ベッドの頑丈な構造は、ヴィクトリア朝時代における身体の健康、日課、規律に関する信念を、幼少期から反映しています。

教育資料

学校用品のガラスケースには以下が含まれます：・約1860年頃の図面スレートで、紙の代わりに使用されました・詩集・バーンウェル・アビー・スクールの卵とスプーンのレースセット・スライドルール・学校用ミルクボトル

これらは、家庭での非公式な学習から組織的な学校生活への転換を示しています。スレートはきれいに拭き取って再利用でき、ミルクボトルは20世紀における子どもの栄養改善への初期の試みを反映しています。

おもちゃケース

この大きなケースには、異なる時代の玩具が入っています：・からかうリング・ケインガタガタ・ジャック・イン・ザ・ボックス・子供用ハイチェア・手人形・ソフトイの犬「Cheerful Desmond」は、1920年代後半に作られました。

おもちゃは、素材が安くなり、製造が拡大するにつれて、遊びがどのように変化したかを示しています。初期の玩具は、しばしば手作りであったり、家庭用品から改変されたりしていました。後期の玩具は商業デザインと大量生産を反映しています。

哺乳瓶 - 19世紀

このケースにはベビーボトルが入っています。ヴィクトリア時代の乳児死亡率は非常に高かったです。哺乳瓶は清掃が困難で、赤ん坊が放置されることがしばしばありました。ミルクは簡単に酸っぱくなり、長いチューブと狭い首の中で細菌が繁殖しました。

これらのボトルは、衛生に関する知識が限られている場合、善意の技術がいかに危険であるかを示しています。彼らはまた、授乳キャンペーンと公衆衛生改革が世紀後半になぜそれほど重要になったのかを示しています。

ノアの箱舟

この彫刻されたノアの箱舟の玩具は、日曜日に普通の玩具が禁じられていた宗教的な家庭で使用されました。子どもたちは、ノアとその家族、そして動物たちに関する聖書の物語を学びながら、まだ遊ぶことができました。

最初のノアの箱舟の玩具は、おそらく16世紀にドイツで製造され、19世紀から20世紀にかけてイギリスで人気を博しました。彼らは、玩具が道徳や宗教の教訓を教えるだけでなく、娯楽にも用いられたことを示しています。

中庭

中庭は、博物館に入る前後に訪れることができます。ケンブリッジ博物館は、キャッスル・エンドに位置しています。キャッスル・エンドは、キャッスル・ヒルの周囲に集まる、カム川の北にある地域です。この地区は長らく権威、宗教、交通と結びついており、町への主要な歴史的河川横断の一つを見下ろしています。

近くにはいくつかの重要な史跡があります：・セント・ピーターズ教会・セント・ジャイルズ教会・ケトルの庭・アセンション教区埋葬地・キャッスルエンドミッション・城の丘

キャッスル・マウンドは、ウィリアム征服王が1066年直後に築いたノルマン城の跡地を示しています。もともとは木造のモット・アンド・ベイリー要塞で、エドワード1世の下で1283年に石造りに再建されました。王はそこに住んだことはありませんでしたが、それは権力の中心となり、展望台、郡の牢獄、そして権威の象徴となりました。ここに約800年もの間、何らかの形で城が建っていました。

ホブソンの導管像

中庭には、1855年から1953年までマーケットヒルにかつてあったヴィクトリア朝の噴水から救出された石像が8体立っています。こ

の噴水は、1610年に建設されたホブソン・コンジットという水系の終わりを示し、ヴィカーの小川からケンブリッジへ清浄な水を供給するものです。

この導管は、ケンブリッジの航空会社トーマス・ホブソンによって資金提供され、彼の富はケンブリッジとロンドン間の人々や貨物の輸送から得られました。1849年にマーケットヒルで火災が発生し、8棟の建物が焼失した後、元の導管ヘッドは移設され、新しくより大きな噴水が建設されました。

これらの像は、著名なケンブリッジの人物を表しています：

・サー・ジョン・デ・ケンブリッジ（ケンブリッジ州議員、1320～1326年）は、家族が地域の宗教機関や大学を支援していた・サー・ジョン・チェック（1514–1557）は、ギリシャ語の初代レギウス教授で、ギリシャ語の発音を改革し、宗教的論争に関与した人物です。・トーマス・サーレビー司教（1506–1570）、ケンブリッジの町役職者の息子であり、王立礼拝堂の院長・ゴッドフリー・ゴールドスボロ司教（1548–1604）、グロスター司教、元ケンブリッジ大学の学生・トーマス・セシル、エクセター伯（1542–1623）、兵士でありクレア・ホールの恩人・オーランド・ギボンズ（1583–1625）、ジェームズ1世とチャールズ皇太子の作曲家で、ブリッジ・ストリートに住んでいた・トーマス・ホブソン（1544–1631）、資金で水供給と貧困救済に資金を提供した運送業者兼恩人・ジェレミー・テイラー司教（1613年～1667年）、ケンブリッジの理容師の息子で、パース・スクールとゴンヴィル・アンド・カイウスで教育を受け、後にアイルランドの司教となった

これらの像は、ヴィクトリア朝時代の市民的誇りと道徳的向上に関する考えを反映し、学者・聖職者・恩人を美德の模範として結びつけています。

ピースヒル ポンプ

ピースヒル・ポンプは、現代の配管が普及する前、ケンブリッジで最も重要な公共水源の一つでした。それは、Peas Hill と Trumpington Street の交差点付近に位置し、町の市場や賑やかな商業エリアの近くにありました。

ポンプは地下の湧き水から水を汲み上げ、地元の住民、商人、旅行者に供給しました。水はバケツで持ち帰らなければならず、乾季には列ができることがありました。ケンブリッジの他のポンプと同様に、近くの排水口や污水口からの汚染に対して脆弱であり、その結果、疾病の発生が頻繁に発生していました。

19世紀になると、公共の健康への懸念から、ホブソン・コンジットや後の自治体の水道などの配管水システムへの支持が拡大しました。したがって、ピースヒルポンプは、都市の水供給の歴史において、清潔な水へのアクセスが共有の屋外水源と肉体労働に依存していた時期の、より早い段階を示しています。

それはまた、ポンプが会合の場として持つ社会的重要性を強調しており、ニュースや噂、情報が交換されると同時に、水の収集という実務も行われていました。

店の正面

曲線状のショーウィンドウは、ブリッジストリート45番地から来ており、18世紀のもので、その地域は1938年にセント・ジョンズ・カレッジによって再開発されました。

博物館の元学芸員であるレジナルド・ランバートは、店の正面が取り壊されるのを見て、救おうとしました。許可を拒否された後、彼は夜間に自転車で何度も戻り、部品を一つずつ運び去ったと言われています。最終的に、正面全体が救出され、再建されました。それは2005年に新しい増築に組み込まれるまで、長年にわたり博物館の庭に立っていました。

店舗の正面は、小さなジョージアの事業所の外観を保ち、大学拡大期に古い商業通りが消失したことを反映しています。

ショップウィンドウ内のオブジェクト

ショーウィンドウ内に展示されているのは、日常の技術やコミュニケーションに関連するオブジェクトです：

- ・ 約1900年の魔法の提灯で、投影された娯楽として使用されました
- ・ 未知の日付のマントラップ・ボルケーノイアのウォッシュダウン式トイレは、初期の水洗トイレの形態です。
- ・ 玩具の列車と馬車（約1890年）
- ・ 計算機 (1960)
- ・ GPOベークライト電話（約1950年）
- ・ レジ・3台のタイプライター

これらは、19世紀後半から20世紀中葉にかけて、機械計算や手作業のタイピングから電化製品や電話に至るまで、仕事・余暇・コミュニケーションがどのように変化したかを示しています。